

地域とともにある学校を目指して

阿蘇市立内牧小学校



■学校・地域の特徴

本校は、東に大観峰、西にかぶと岩、正面に阿蘇の五岳を望み、背面には外輪山の屏風を立てる景観の地に位置している。古くから温泉旅館、観光土産品店、商店、住宅地として発展してきた地域である。

平成25年4月から土曜授業に取り組み、さらに、平成27年3月には、学校運営協議会を設立しコミュニティ・スクールが動き出した。現在、公民館分館、区長会、老人会、旅館組合、消防団等の関係機関と連携し、内牧のよさを知り、ふるさとを愛する児童の育成に取り組んでいる。

■研究の概要

■連携型土曜授業

地域人材や専門機関等と連携して学習内容の充実を図る。

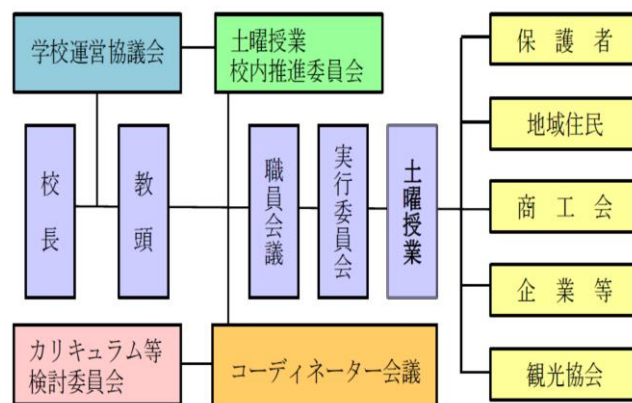
■体験型土曜授業

児童が地域に出かけて地域の歴史や伝統文化に触れ、地域の方々との交流を深めるとともに、音楽鑑賞会等の文化的な内容を聞いたり体験したりする。

■公開授業型土曜授業

教科、道徳等の授業や文化的、体育的な学習内容を公開する。

■体制図



■年間カリキュラム

月	区分	活動内容	教育課程
5	公開授業型	授業参観 総会 懇談会	各教科
6	公開授業型	学力充実（授業時数確保）	各教科
7	公開授業型	校内童話会 縦割班フェスタ	国語 児童会活動
8	体験型	地域体験活動	地区ごとに実施 1・2年：生活科 3～6年：総合
1 1	連携型	学力充実	1校時：1・3・5年 2校時：2・4・6年
	体験型	地域貢献活動（H27年度）	児童会活動
1 2	公開授業型	授業参観（性に関する教育） 懇談会	学級活動
1	公開授業型	学校公開日	各教科
2	体験型	音楽鑑賞会	学校行事

※平成28年熊本地震のため当初の予定を変更

体験型土曜授業 「地域体験活動」

■活動のねらい

- 地域の人々、保護者との交流をとおして、地域の伝統や歴史を学び、地域の人々の温かさや地域のよさに触れることで郷土を誇りに思う子どもを育てることをねらいとする。

■1日のカリキュラム

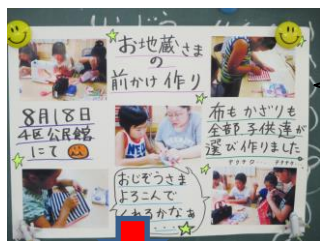
	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生
1 校時	・ 14 の地区の公民館に 9:00 に集合。地区ごとに開会式を行い活動に入る。 ・ 高学年が主体になり司会進行，活動上の注意を行う。 ・ 地域の方々が指導者になり，地域の題材で体験的な学習を行う。 ・ 学習のまとめ，感想を出し合う。（振り返り） ・ 振り返り用紙にまとめの記入をする。（児童，保護者，地域の方々） ※PDCAを意識し，次年度の活動につなげる。					
2 校時						
3 校時						

■実施上の工夫

- 当日までの流れ（活動内容の決定と通知の工夫）
 - ① 土曜授業コーディネーター会議を開催し、活動内容についてのカリキュラム等の検討を行う。
 - ② 学校運営協議会で本年度の方針、期日を決定する。
 - ③ 第1回地域体験活動実行委員会（7/10）、第2回地域体験活動実行委員会（8/10）の2度の会議で活動内容について地区ごとに話し合い、決定していく。（公民館分館長、区長、PTA4役、PTA地区長、PTA体験活動推進委員）
 - ④ 決定した内容は一覧表にして、第2回の会議時に地域の方々や参加した保護者の方々に配付する。その後、全児童に配付する。
 - ⑤ 地域への通知の工夫は各地区で話し合っており、『各家庭から地域の方々を誘う』、『チラシを作成し回覧板で通知する』、『老人会へ区長が協力の依頼をする』、『阿蘇市のお知らせ端末で地区の全家庭に通知する』等を行い、地域の多くの方々へ周知し参加できる活動とする。
 - ⑥ 児童が主体的に参加することをねらい、事前の業間にミニ地区児童会を行い、活動内容、持参物、進行等について打ち合わせをする。活動の共有化を図ることで、児童一人一人が主体的・協働的活動、いわゆるアクティブ・ラーニングによる活動になる。主体的な学びが人間性を高めるものになる。
 - ⑦ 事前に何回も活動内容の打ち合わせ、地域・保護者・学校の協働によるカリキュラム作りを行うことで、地域社会に開かれた教育課程が編成されることになる。同時に地域・保護者・学校による教育課程の共有化を図る。
- 実際の活動
 - ① 当日は自分の地区の公民館に直接集まり、6年児童が開会式を進行し、活動に入る。
 - ② 地域の中で、地域の人々と触れ合い、地域のことを体験をとおして学ぶために、各地区で考えた活動に取り組む。
 - ③ 終わりの会を開き、児童、保護者、地域の方々のそれぞれに感想を書いていただき、発表する。
- 事後の活動（第3回地域体験活動実行委員会）（11/4）
 - 児童、保護者、地域の方々それぞれの立場から資料を作り、振り返りの発表をする。発表後、質問や意見を受け、次年度に向けた構想を練る。

■学習内容の実際

【事例①：4区「お地蔵さん巡り」】



高学年の声かけで、自主的な事前活動として「お地蔵さんの前掛け」作りをした。(指導者：保護者の方々)

当日のルート説明に、わかりやすい手作りマップを作っていました。(作成：6年生・地域の方々)



五方所のお地蔵さんの周りを掃除したり、草取りをしたり、お地蔵さんを拭いたりときれいにした。

最後にお線香を上げて、心を込めてお参りをした。



仕上げにあらかじめ作っておいた前掛けを付けて完了した。

お地蔵さんの歴史や地域の方々の思いを学び、心を込めての清掃。本当にお地蔵さんが喜んでいえるように見えました。子どもたちの活動を見守っている私たちまで心が清々くなりました。また今度あるときに参加しますので、声をかけてください。楽しかったです。(地域の方の感想)



【事例②：成川「川の生物を調べよう」】



川遊びをしなくなった子どもたち。地域の方、保護者と一緒どんな生き物が川や用水路にいるか捕まえてみることにした。

久しぶりに子どもの元気な声を聞きました。最近お川に入ることなど少ないので、泥水に入るのをいやがる子もいます。もっと自然と親しんでほしいです。また、何か手伝いができれば幸いです。(地域の方の感想)

【事例③：その他の事例】

七池伝説調べ：山田



かかし作り：西湯浦、湯浦、南宮原



水鉄砲作り：一区



【事例④：振り返り活動】



区長、保護者、児童が今年の活動について、資料を提示しながらわかりやすく説明した。

■成果

- 地域を学習の場としたことで、身近な地域の方々から生きるための知恵、人としてのあり方など教室だけでは身に付けることができない貴重な学習をすることができた。
- 地域の方々から、「楽しかった」「ずっと続いてほしい」「また声をかけてほしい」という声が上がった。また、地域の顔見知りも増え、防犯、交通安全、挨拶等のマナー教育にも効果を上げている。
- 3回目の実行委員会で児童・地域・保護者・学校が一堂に会し、本年度の活動の概要発表と成果及び課題の検証を行うことで、四者の関係がより緊密になり次年度のよりよい活動への意欲付けとなっている。

体験型土曜授業 「地域貢献活動」

■活動のねらい

- 子どもたちと地域の方々との交流をとおして地域や自然のよさを知り，コミュニケーション能力を高めることを目的に地域体験活動を行った。ここから得た経験を基にして，今回は自分たちでできることを行動に移すことをねらいとする。また，地域体験活動や学校応援団などで，日頃からお世話になっている地域の方々に感謝の気持ちを表すとともに，自分の住む郷土を大切にする心情と環境美化を積極的に進める態度を養う。

■1日のカリキュラム

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
1校時	基礎パワー アップタイム (基礎学力向上の時間)	通常授業	基礎パワー アップタイム (基礎学力向上の時間)	通常授業	パワーアッ プタイム (基礎学力向上の時間)	通常授業
2校時	通常授業	基礎パワー アップタイム (基礎学力向上の時間)	通常授業	パワーアッ プタイム (基礎学力向上の時間)	通常授業	パワーアッ プタイム (基礎学力向上の時間)
3校時	地域貢献活動（児童会活動：各地区で）					

■実施上の工夫

- 当日までの流れ（活動内容については児童代表から事前に公民館分館長，区長，PTA地区長に連絡し，協力をお願いする。）
 - ① 実施2週間前の業間の時間に，児童の地区長・副地区長を集めて，当日のスケジュール等を連絡する。内容については，各公民館を拠点とした公民館周辺の「ゴミ拾い」を原則とし，その具体的な方法（遠い地区は帰りながら通学路のゴミを拾ったり，近い地区はグループ毎にゴミを拾うエリアを割り振ったりするなど）を考えておくよう指示する。
 - ② 実施10日前の業間の時間に，ミニ地区児童会を行う。4～6年生による話し合いを行い，内容・係（司会進行等）の決定をする。方法や班分けについて，各地区の人数や学校からの距離等を考慮して決定させるようにする。
 - ③ 実施3日前の業間の時間に全員参加のミニ地区児童会を行い，内容・係・持参物確認を行う。
 - ④ 当日は，2時間目終了後一斉下校を行い，遠い地区は帰りながら貢献活動を行う。近い地区は，現地にそのまま集合し，貢献活動を行う。実施後，土日の宿題として配付していた振り返りカードに記入し，学校に提出する。

○ 学校の準備

- ① 道具等を置くなど公民館を使用するので、各区長、老人会長に使用確認をとる。（児童から連絡）
- ② 各地区担当者は、事前の話し合いの支援をしていく。また、当日の指導や活動の様子を記録し、後日活動記録としてまとめる。

■学習内容の実際



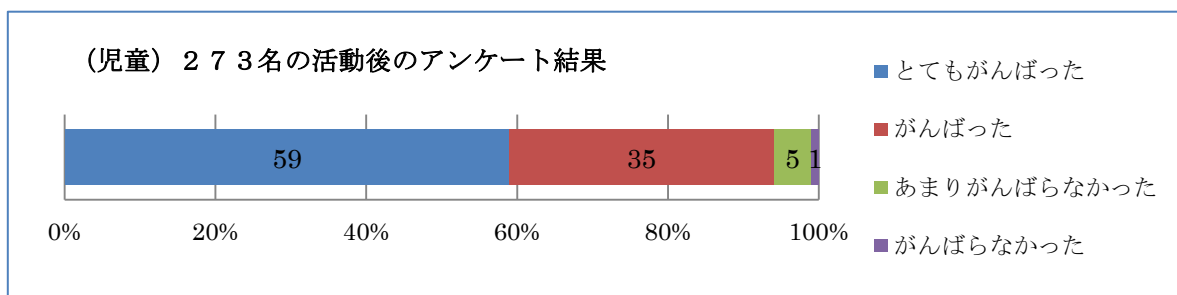
（西湯浦地区：通学路のゴミ拾い）
それぞれが、ビニル袋やかねばさみを持ち、通学路のゴミ拾いをしていた。空き缶、たばこの吸い殻などたくさん落ちていて、マナーについても考えることができた。公民館到着後、ゴミの分別を行い、分別の仕方についても学ぶことができた。



（小里地区：公民館掃除）当日は、地区の文化祭が開催されており、公民館の外回りや隣接する神社の境内の落ち葉掃きをした。みるみるうちに境内がすっきりしていくことで、達成感を抱くことができた。終わった後は公民館内にて料理をご馳走になり、地域の方々に大切にされていることを実感することができた。また、文化祭を見学に来られていた市長にも会うことができ、ほめていただいた。

■成果

- 事前に児童の地区長、副地区長を中心に話し合いを持って参加することで、地域貢献活動そのものが主体的・協働的学習、いわゆるアクティブ・ラーニングになっている。活動に意欲的に取り組み、達成感・満足感を持った児童が多い。



- 地域体験活動として公民館や神社の清掃活動をしたり、通学路のゴミ拾いをしたりすることで、公共の場を大切に使うマナーや公共の場を使うことができる感謝の気持ちが育っている。
- 保護者や地域の方々と触れ合う機会が増え、地域のつながりが広まってきている。
- 地域の方々と一緒に活動していく中で、児童のコミュニケーション能力が高まっている。
- 地域体験・貢献活動は、「地域とともにある学校づくり」の具現化につながっている。
- 老人会や保護者の参加が多く、学校からも情報発信しやすい。

「保護者や地域住民等への公開授業に関する実践例」

公開授業型土曜授業 「道徳の公開授業」「心のきずなを深める集会」

■活動のねらい

- 道徳の公開授業では、児童はもちろん、参観されている保護者の方々もともに考えたり、家庭でも話題にしてもらったりすることで、「生命の尊さ」について、さらに心情を高めることをねらいとする。
- 「心のきずなを深める集会」でも、児童が中心に進める集会を公開したり、「生命」のお話を保護者と一緒に聞いたりすることで、ともに考えたり感じたりする機会となることをねらいとする。



■1日のカリキュラム

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
1校時	それぞれの学年・学級での教科等の授業					
2校時	公開授業：全学年道徳「内容：生命の尊さ」					
	ハムスターの赤ちゃん	いのちはいくつもあるのかな	いただいたいのち	はとと馬	その思いを受けついで	命をみつめる
3校時	心のきずなを深める集会(進行：生き生き委員会) ○スマイル委員会からの発表 ○学級からの発表 ○講演：温泉病院産婦人科荒尾先生					

■実施上の工夫

- 道徳の授業を公開し、保護者等に見ていただくことで、「生命の尊さ」について児童はもちろん、家庭でも意識を高めてほしいと願っている。特に低学年では、授業の中で児童が保護者と触れ合う場面を設定したり、互いの心臓の音を聞き合ったりして、授業参観ならではの活動を取り入れ、学習がより充実したものになるようにしている。
- 「心のきずなを深める集会」では、児童が委員会で考えた「いじめ根絶スローガン」や各学級の目標を発表する姿を保護者の方々にも見てもらい、学校での取組を広く知っていただいている。また、違った視点からの「生命」に関わる講演を設定することで、さらに学習を深められるようにする。



命の音が聞こえたよ！



■成果

- 学校全体での取組に、保護者や地域の方々に参加していただくことで、ともに考えたり、話し合ったりすることができ、学習に広がりや深まりが見られた。

「通常の教科等の授業」に関する実践例

連携型土曜授業 「基礎学力向上タイム(パワーアップタイム)」

■活動のねらい

- 基礎学力向上タイム（パワーアップタイム）では、本校がめざす「学習規律を守り自ら学ぶことのできる子ども」の育成を達成するため、子どもたちの学習の基礎・基本の習熟を図るとともに、課題である「書く力」「読む力」「活用能力」を向上、定着させることをねらいとする。
- 土曜日に全学年で実施し、学習ボランティアの協力のもと全職員で関わり、一人一人の児童に、より充実した学習の時間にすることをねらいとする。

■1日のカリキュラム

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
1校時	基礎パワーアップタイム	通常授業	基礎パワーアップタイム	通常授業	パワーアップタイム	通常授業
2校時	通常授業	基礎パワーアップタイム	通常授業	パワーアップタイム	通常授業	パワーアップタイム
3校時	地域貢献活動（児童会活動：各地区で）					

■実施上の工夫

- パワーアップタイムとは、児童が国語や算数の問題プリントに取り組む時間のことで、児童が自分のペースでどんどんプリントを進めている。そのプリントを学習ボランティア（花丸先生）に丸付けをしてもらい、職員はその間、個別指導にあたるようにしている。
- 各学級に、より多くの職員や学習ボランティアの方に入ってもらえるようパワーアップの時間をずらして設定している。



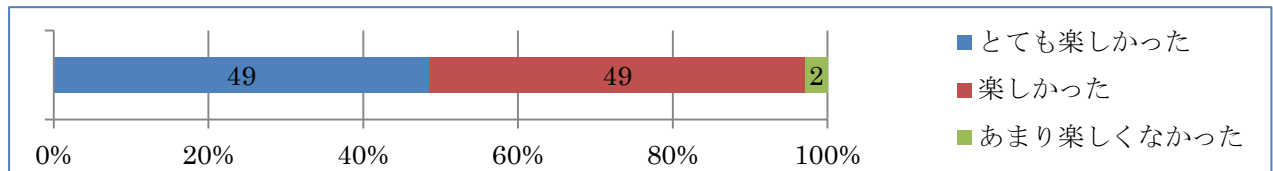
■成果

- 「わあよくできたね。」「上手、上手！」など、花丸先生方がたくさんほめながら丸を付けたりアドバイスしたりしてくださるので、児童の意欲や集中力も高まっている。また、個別指導もできるため、効率よく学習ができた。
- 教師以外の地域の方と会話をすることで、コミュニケーション能力が身に付いてきた。

2 年間の研究のまとめ

■取組の成果

(平成 27 年度内牧二区児童 80 名のアンケート結果)



- 上のグラフは 14 に分けられた地区の中で最も児童数の多い地区のアンケート結果である。人数の多い地区には、わずかに「あまり楽しなかった」と答える児童が存在するが他の 13 地区には存在しない。各地区の特徴を踏まえ、児童を中心に据えて、地域・保護者がカリキュラム作りに携わることで地域に開かれた教育課程につながっている。そのことが、学校を核とした地域の活性化、地域づくりになっている。
- 児童の地域に対する興味・関心が高まり、「内牧のよいところは？」という問いにも具体的に地名を出して答えることができる児童が増えた。職員についても各地域について詳しく見直すよい機会となり、生活科や総合的な学習の時間の充実につながっている。
- 土曜授業で地域・家庭・学校が一緒に活動することで一体感が生まれ、その他の学校行事にも協力してくださる地域の方々が増えた。大豆、さつまいも、椎茸のコマうち等はすべて地域の方々の協力を受けている。また、4 年生の草原体験学習（草泊まりの作成及び宿泊）では、材料の準備の「茅切り」から草泊り作りまでのすべての活動に、延べ 80 名の地域の方々の参加があった。年々協力者が増えてきている。さらに、雨天時の活動の延期の対応も、責任者の方々が自主的に学校に集まり、スムーズな協議を行うことができた。
- 地域と連携した基礎学力向上の取組では、ボランティアの方が花丸先生として声かけと丸付けをしてくださることにより児童のやる気が持続し、基礎学力向上に効果的であった。(H28 年度全国学力・学習状況調査算数 A は、平均正答率が全国と比較して +2.1 ポイント)

■取組の課題

- あらかじめ土曜授業を優先させてほしいという学校の方針は出しているが、多い時で 276 名中 20 名以上の欠席がある。一人一役、すべての児童に出番を与えていくという面から考えると現状では学校単位、学年単位での成果発表会のようなものができにくい。また、社会体育の公式戦や地域の保育園との行事の重なりがあると児童・保護者の不参加が増える。
- 地域・保護者・学校が一体となって行う地域体験活動はかなり成果を上げてきているが、人数の多い地区では活動内容が限られてくる。また、回数を重ねるごとに児童の興味を引きつつ地域を知る内容を考え続けることが難しい。
- 地域体験活動や地域貢献活動では、本校の地域が観光地であることから、安全上・防犯上の対策をさらに練る必要がある。

■今後の方向性

- 職員が積極的に地域の行事に参加することをとおして、学校から地域へ協力をしていきたい。そうすることにより地域と学校の絆をより一層深め、土曜授業をより地域に開かれたものにしていきたい。
- 保護者や地域への啓発活動では、成果や効果を知らせる工夫を行い、土曜授業への参加率を上げていきたい。